



こころ温い

湯ヶ原幼稚園

及川 ふみ

秋のはじめ頃に天下の名湯、湯ヶ原温泉地にある湯ヶ原幼稚園の母の会に招かれた。入湯にかけて目のない自分であるから快諾してその日の来るのを楽しみにまつて居た。この地は両側が山にせまつた川沿いの狭い温泉町であるところから幼稚園はそれのどんな場所に建てられであるのかしらなどと考えてもいた。湯ヶ原ゆきの当日は駅までお出迎え下さつた牧野先生の後についてバスを降りた。橋を渡つて石坂を降りると、川ぶちの崖の間をたくみに利用して建てられたささやかな幼稚園である。対岸の高層な温泉旅館の櫛比するのに比べて凡そ大きなへだたりのある感じが強かつた。しかも狭い場所に建てられてあるので、唯一の保育室の上には、梯子で昇り降りする職員事務室があり、石段を昇つてゆく遊園がある

という工合で、立体的な幼稚園の施設である。ここで遊ぶ幼児たちは、一日の幼稚園の生活の中にいく度か保育室や遊園を昇つたり、降りたりすることとてさぞ健脚なお子さん揃いになるであらうなど思われた。当幼稚園設置基準などについて考えられている時ではあるが、どんなに狭い場所にも幼児たちのためにという強い熱意がもり上げばまず幼稚園の誕生といふことになるものであらう。

忙しい土地柄であるのにお母さん方も定刻に集つていて下さつてお役にも立たない自分の話に熱心に耳をかたむけて下さつた。この後でお母さん方の間に一人一人のお子さんたちのお話はずんだ。その中の一人髪を無造作に束ね、じみな簡粗の上着に、もんべ姿の年配のお母さん「私の家の子供は男の子ですが毎日幼稚園から帰ると山に遊びにいつて靴でも、下駄でも、草履でも満足に両方揃つてはいて帰ることがなく。いつも幼稚園へびつこなはきものばかりはいて来ても平気でいて困ります」といふお尋ねがあつた。「お元気でよいですね、寒くないようには素足でもよいでしょう。遊びに夢中になつてはき物がじやまになるのでしようから遊び始めにはき物をぬぐこと、ぬいだ場所をよく覚えておくこと、片びつこのはきものはかない様にするなどお母さんと先生とお子さんと三人で相談の上で約束してみてもどう

でしよう」などお答えしておいた。そのあとこのお母さんは「まだ今日の仕事があるからお先に失礼する」と挨拶されて途中で帰つてゆかれた。地下足袋をはいて石坂をのぼつて帰られる後姿を見送つた。忙しい大切な仕事を休んでわざわざ今日の集りに参加されたことを一入うれしく感じた。一応母の会が終つて梯子を昇つて職員室で幹事のお母さんと先生方とでお茶をいただいた。さつきの地下足袋のお母さんについて、はきものことから又その他のことでもこの町に住む方の様にも思われなかつたので牧野先生に事情を伺つてみた。

「あのお母さんはいつの母の会にも必らず出席なさる熱心な方であるということを前提に、次の様なことを話して下さつた。」

お家は二十分以上も歩いて通う山の中腹にある。お子さんが多くて、近年この地に移り任んで来た方で、家も素人が建てた様な簡易なもので両親は百姓仕事をしている。幼稚園では月月の保育料その他の費用を一切免除している、両親は幼稚園の特別の厚意に対して両親が労力奉仕で感謝している。などのことでこの湯ヶ原幼稚園で又一つ思いがけない心あたたかいものを感じてうれしかった。夕やみせまる温泉町を牧野先生方と下りながら話のはなほも山の母子の上につづいた。それは十一月の東京上野の動物園の遠足のことであつた。

幼稚園で母と子遠足の企てがあつて、園長先生は勿論始めからこの山の母子を誘つてその出費の負担は自分でもつことにきめてとの話であつた。ところが山の母さんはこれに参加することを大變に喜んだ上、かねてよりこんな時のために貯えがあるから汽車賃その他は御世話にならなくてもよいとの事であつた。ただ着物は仕事着だけであるからどなたかのお借りしたいという事であつた。しかし着物は幼稚園であつせんしないうちにお母様方の間で手頃なものが間にあつたらしくて、下駄だけ新調して晴れの全園揃つての遠足が秋の快晴の日に楽しく進められた。実にたのしい。うれしい遠足であつた事を話された。話される牧野先生も、亦それを聞く自分も心うれしさで一ぱいであつた。この度の湯ヶ原入湯によつて名実ともにみもこころもあたためられたことをしみじみ感じさせられた。

この頃にも幼稚園の実情にうとい人たちの間では、幼稚園はぜいたくなものであり、豊富な家庭の子女のみゆくべきところであるという古い觀念をもつていて現代の幼稚園の実体とうとい人がある時にこの園と山の母子の楽しい幼稚園の眞の姿をこゝにしるしておきたい。湯ヶ原幼稚園の園長柏木英雄さんは温泉旅館を経営されている篤志家である。多忙な本職の間をこの町の幼児たちのために幼稚園をつくられている。